

国際婦人デー集会に寄せられたメッセージ フィリピン共産党からのメッセージ

東アジアとフィリピンに戦争と荒廃もたらす帝国主義 平和と社会主義のための国際連帯を！

エドゥアルド・F・ランダヤン（フィリピン共産党〔PKP - 1930〕書記長）

同志のみなさん

フィリピン共産党〔PKP - 1930〕は、活動家集団思想運動が二〇二三年三月四日、東京において、本郷文化フォーラムワーカーズスクール（HOWS）との共催で実施する「国際婦人デー集会2023」に参加されたすべての女性会員と労働者のみなさんに熱い同志的連帯のごあいさつを送ります。

米国の戦争挑発政策で鳴り響く戦争の音

戦争の太鼓が、みなさんの国やわたしの国、そして、台湾のあるこの地域で鳴り響いています。この地は、米国が敵対する中国、ロシア、朝鮮民主主義人民共和国とのあいだで攻防を繰り広げている最前線となっています。わが国には、国民に知らされていない米軍基地が五か所あり、そこでは各種軍備が一時的に保管されています。日本には、軍事基地や前線基地が七か所あり、この両国のあいだに位置する台湾では数百人の軍事顧問が同地の軍を訓練しています。さらに、米国の超大型航空母艦が、中国、日本、フィリピンを結ぶシーレーンにおいて常時、警備と偵察任務を遂行しています。これらはすべて、米国が攻撃の意図をもってこの地域の不安定化と挑発を試みていることの証拠です。

米国は、西フィリピン海域に点在する島々の岩礁という導火線を利用するとともに、台湾の中国本土への統一、および、ロシアのクリル地域における択捉、国後、色丹、歯舞に関する未解決問題に関与し、打撃や変形的作用を通じ、この地域の各国の指導者とのあいだで「鉄壁」の同盟を築くことができました。米国が追求しているのは、中国やロシアなどの国々によって押し出されている多極世界という脅威に対抗し、米国の覇権を引き延ばすという一極的利益です。このことで軍備や核の対立が過激化し、わたしたちの地域全体が崩壊し消滅に至らないようにしなければなりません。

グローバル化で荒廃してゆくフィリピン

同志のみなさん

数週間前、クウェートの砂漠でジュニビー・ラナーラという名前のフィリピン人家政婦が焼死体で発見されました。クウェートでフィリピン人が凄惨な方法で殺害されるという事件は、これが二件目です。二人とも、家族を養うため家政婦として働いていました。二人は、雇用主である外国人からの残虐な家庭内暴力の犠牲者です。

今日、海外で働く女性は約一〇万人います。その多くが、家事手伝い、販売員、美容師、マッサージ店や温浴施設の補助員などのサービス業、また、看護師や介護士など、受入れ国の基盤的職業分野で就労しています。女性の多くが若年層であり、その大半を地方出身者が占めています。彼女たちが海外就労をするのは、本人の希望ではありません。そのほとんどが、経済的な理由から海外で稼ぎをせざるを得ないのです。

貿易の資本主義的グローバル化と自由化によって、わが国は余剰農産物と工業製品の投

棄地に仕立てあげられました。その結果、わが国の農業および工業分野が大打撃を受け、とりわけ中小企業は破綻しました。長期にわたる輸入自由化の強行により農業が崩壊したことから、農業分野の国内総生産（GDP）に占める割合は二九%から九%にまで落ち込み、いままも低下しつづけています。完成した既製の流入は、零細な縫製業や仕立てメーカー、衣料品製造企業を破壊しました。繊維産業の崩壊につづいて安価な輸入品が流入したせいで、キッチン用品や家具など国内供給を担っている他の製造業も破壊されました。今日ではさらに悪いことに、わが国の市場は、中古の家庭用品、衣類、椅子やテーブルなどの家具、家電製品、自動車、トラックなどで溢れかえっています。しかも、そういった中古品は、どの店でも、遠く離れた島や山の上、都市のスラムまで、わが国のすみずみで、まるでキャンディのように売られているのです。今日、わが国の民族主義指向の経済学者は、わが国を「中古品使用国家（ukay-ukay nation）」と呼んでいます。これは中古品を意味する「使用可（Ok-Ok）」からの造語であり、なんとかまだ売れそうな中古製品でできている国家という意味です。

帝国主義的グローバリズムによる自由化により、国内の農業と工業生産が破壊されたことに加え、通貨と金融システムがドルの点滴なしには生きながらえることのできない「ドル食い」産業へと転換されました。わが国の工業生産が廉価な原材料（鉱物や農産物）の純輸出に改編されたことから、わが国にとって必須の基軸通貨であるドルを中心とする外貨の減少が生じました。わが国は、食糧およびエネルギーを購入するために外貨を必須としています。そこで、わが国は、外国からの借入れに加え、この必須のドルを補填するため国内の人的資源や労働力を輸出しなければならなくなったのです。

輸入に見合うよう自国の資源を安価で輸出しつづける過程において、わが国の労働力と人的資源は、自由主義的エコノミストの陰謀によってドル供給を支える構造へと改編されました。この連中は、わが国の経済成長に資するよう経済的、物質的、人的資源を開発しようとはせず、経済の自由化をいっそう推し進めたのです。かれらが資源採掘産業における外国資本の流入を自由化したことから、わが国は世界有数の天然資源輸出国へと転換しました。かれらは、公共部門、観光産業、小売業、中小規模の産業の門戸を外国人や国外の投資家に開放するとともに、農産物の輸入をも自由化しました。このことにより、経済は完全に混乱し、わが国の対外依存が深刻化しました。

この状況は最近の世界的な感染症の流行と大規模なロックダウンによって悪化し、高インフレと急激な食料供給の不足が生じました。感染症の大流行とロックダウンから脱したとはいえ、社会・経済生活への悪影響は依然としてつづいており、インフレは主に食料品、燃料、電力において落ち着きを取り戻していません。その結果、サービスと貿易が一部復活したものの、地域社会を支えている産業のほとんどが回復には程遠い状態であり、国民の多くが従事している農業および農産物を主体とする地方部で最悪の事態が生起しています。

隷属的扱いを受けるフィリピン女性たち

こういった事情から、わが国の女性たちは今日海外へ出稼ぎに行かざるをえないのです。しかし、その多くはまともな収入を得ていません。それどころか、搾取や劣悪な待遇、悲惨きわまりない環境に置かれています。また、「男性優位」の国々で雇用されている多くの女性出稼ぎ労働者の場合、その状況はさらに深刻です。男性優位社会は、文化的、社会的に女性を差別します。こういった社会に特有の文化や偏見により、女性は社会の二次的構成員として処遇されるとともに、隷属的な取扱いを受け、性的欲求や満足の対象と見なされます。このような差別にさらされるのは、多くの場合、出稼ぎで働く女性たちです。彼女たちは、受入国において悪質かつ差別的な処遇のターゲットとなるのです。そのため、

出稼ぎ女性労働者のなかに、受入国における性的、身体的、心理的虐待の犠牲が生じやすいのです。なかでも最悪のケースが、上述した二人の海外出稼ぎフィリピン女性の身に起きた殺害、拷問、レイプ事件です。この二件は、公表されたことからわれわれの知るところとなりましたが、同様のケースは決して少なくないはずで

東アジアでウクライナ事態が再現される危険

世界中の貿易、経済、資源の支配を第一義的目標とする資本主義によるグローバルな覇権争いが、現在、アジアにおいて過激化しつつあることは明らかです。この動きから、今日この地域における緊張が亢進し、戦争の危惧が生じているのです。覇権主義も戦争も、どのような形態であれ、また、どのような手段であれ、人類にとって絶対的に忌まわしいものです。そして、その最悪の形態こそが武力衝突、戦争、破壊であり、それは人類の消滅を引き起こします。

帝国主義の戦争と侵略による破壊的影響は、大量の人的、物的損失を引き起こします。それは、世界的退行、開発の停滞、そして、大量の難民の発生へとつながります。わたしたちは、この事態をイラク、リビア、アフガニスタン、イエメン、ソマリアで目撃しました。この影響は現在、ヨーロッパ、とくにウクライナとロシアにおいて看取することができます。最悪の事態が生じているのです……。ヨーロッパにおける戦争の影響はまさに「身の毛がよだつ」ものであり、その凍てつくほどの寒気は、どの家庭でも、どの街角でも、どの大都市や小都市でも、また、はるか周縁の地域においても吹き荒んでいます。極大利潤の獲得を狙う米国をはじめとする帝国主義者が武器やエネルギーの販売で戦争から栄養を摂取するいっぽう、ヨーロッパなどで暮らす庶民は、戦争の影響による食料とエネルギー価格の高騰によってもがき苦しんでいるのです。

帝国主義者は、自己保存と支配の思想で育まれています。この連中には、一生涯、友人も親しい家族もいません。誰もが競争相手であり、友人や兄弟、同盟国であっても敵なのです。資本主義の物欲は、その祭壇に捧げる生贄の子羊を選びません。ひとはだれであろうと、また、国家でさえもがその対象となります。このことがいまヨーロッパで生起しているのであり、貪欲で抜け目のないヨーロッパの指導者らは米国による反ロシア十字軍に加勢しているのです。この連中が夢見ているのは、米国の勝利によってヨーロッパでのみずからの覇権が強まることです。もっとも、いま、ヨーロッパにおけるこの夢想は悪夢へと変わりつつあります。ヨーロッパ経済は崩壊寸前であり、ウクライナ国民は敗北の一手手前です。この戦争が長引けば、ヨーロッパの苦悶はいっそう深刻化します。ウクライナでは、破壊と流血が拡大します。結末がどうなろうと、米帝国主義が戦争で利潤を得ることはたしかです。この事態が招来するのは、ヨーロッパの破壊と非工業化、そして、ヨーロッパ経済が帝国主義者の経済的代行機関へと改編されるという結末です。

ヨーロッパの指導者らは予想したとおりの敗北でもがいていますが、バイデンら帝国主義陰謀団は祝杯をあげています。同群団が戦争に負けたことはたしかです。しかし、この連中は勝利したのです。というのは、友人であり主要な同盟国であるヨーロッパ経済を征服できたからです。かかるシナリオは、いま、アジアにもゆっくりと適用されつつあります。米帝国主義者が中国に対し経済戦争を仕かけるいっぽう、それと並行してアジアにおいては、かれらが第二次世界大戦での日本の敗北後に築いた復古的な帝国主義的支配が進行しています。帝国主義者は中国を主要な競争相手とみなしていますが、アジアの同盟諸国もみずからの競争相手であり市場であるとみなしています。日米の鉄壁の同盟関係は、現在、武器購入の拡大、武器の共同生産、軍事・海軍の合同演習、日本や太平洋地域のシーレーンでの合同警備に見ることができます。台湾では、武器販売の拡大、マイクロチッ

プ産業の管理、帝国主義者の指揮下にある代理軍の創設という形態で現れています。わが国では、米国の空・海軍基地と監視ポストの復活、米国の艦隊によるフィリピン海域内外でのパトロールという形態で現れています。外国の軍事基地は、人身売買、売春、白人によるフィリピン国民の奴隷化の発生源でした。いま適用されつつあるシナリオは、そのときのわたしたちの苦悩を再び呼び起こすものです。外国の軍事基地があった地域では、撤去後何年も経っているにもかかわらずこの傷はいまなお癒えていません。

最悪かつ今後起こりうることは、現下のウクライナ事態の再現です。紛争の最前線となっているウクライナはいま、最悪の人道危機に見舞われています。帝国主義戦争当事者がこれと同じシナリオをわたしたちの地域で適用し、そこを最前線として設定し、大規模な軍事紛争を引き起こす恐れがあります。

平和を強化し戦争を回避するため連帯へ

同志のみなさん

戦争は、その始まりから、男性の支配する事業です。戦争は、女性に敵対する文化、価値、態度を完璧につくりあげました。それは、女性を、弱く、隷属的で、男性の欲望や気まぐれの対象であるかのように取り扱いました。今日わたしたちが遂行しなければならないのは、平等のための戦争、社会における対等のパートナーとして女性を尊重し認識するための戦争、国際平和のための戦争、民主主義、平和と社会主義のための戦争です。

わが党は、この歴史的な日に、みなさんと世界中のすべての女性に敬意を表します。わが党は、われわれの協同、友愛、連帯によって、平和が強化され、戦争が回避され、グローバルなレベルでの認識、友情、平等、友愛が育まれることを願うものです。

ありがとう。

同志愛をこめて。

二〇二三年三月四日

【訳＝木田誠也】

(見出しは編集部)

(『思想運動』1087号 2023年4月1日号)